

「シルクロード旅愁」 吉田 克美

ラマダンや街騒遠く深眠り

秋夕日ラクダと共に染まり行く

雨台風晴れ生臭き首途かな

秋暁や人湧き出でて日の出待つ

崑崙山脈雪形に師の秋の声

スカーフの色とりどりや棉を摘む

ゴビ沙漠若木ひらひら涼新た

秋暑し蜃氣樓衝き西域に

ハミ瓜の冷え食べ尽し絹の道

バザールの男の皓歯秋高し

カレーズの玻璃の人波秋湿り

ラマダンや市への道の群ひつじ

黍嵐貨車四十両の一直線

合歡は実に大路行き交うロバのバス

タクラマカン真紅に乾く唐辛子

野分来る砂塵の憩うボプラ林

クチャを発つ朝顔千個に見送られ

秋霞崑崙の陽は月の色

天山山脈足下雲巻く秋の暮れ

銀の太陽オアシスの秋桜

玉の国拾つては捨て鰐雲

タリム河橋秋風に乗りワルツかな

絹の道青空トイレを秋うらら

玄奘の足下幸あり蟻地獄

壳られゆく羊の群の露けしや

玉磨く節桟指や月満ちる

初紅葉女着飾る牛の市

値切る声誰もが和して秋日和

一対を羨して機中月と星

出迎えの虫の滲みて旅終わる